

福井県教育委員会

「一人ひとりの個性が輝く、ふくいの未来を担う人づくり」
(第4期福井県教育基本振興計画 基本理念)

教育目標 Take action for your future.

【武生高校で培いたい資質・能力】

グローバルな視点での複雑な課題に自ら挑戦し、国際社会や地域社会で活躍できるリーダーに必要な「Thinking」「Knowledge」「Forward & Frontier」を育成する。

【T】 Thinking … 論理的な思考力 多角的な考察力 独創的な発想力
【K】 Knowledge … 教養と体力 言語活用能力 コミュニケーション力
【F】 Forward & Frontier … 自走する力 合意形成力 未知のことに挑戦する力

【人権教育および教育相談の拡充】 各教科、特別活動を中心に他者理解、異文化理解等を深め、異年齢間交流等を積極的に進める。
すべての生徒が学校に居場所を感じられるよう、全職員で教育相談体制を充実させる。

重点目標

1 教育課程・学習指導

教務部

- ① 生徒の学習意欲の高揚および学習内容の理解と定着を図り、確かな学力を身につけさせる。
- ② 家庭学習の習慣を確立させ、自ら学ぶとする態度の育成に努める。
- ③ 生徒のICT活用能力を育成する。

2 生徒支援

生活部

- ① 人権を尊重する意識を高める。
- ② 規範意識の高い成熟した人間性を育成する。
- ③ 部活動や学校行事・生徒会行事の充実を図る。

3 進路支援

進路部

- ① 基礎学力を充実させ、個々の進路希望に応じた確かな学力を養成する。
- ② 進路意識の高揚を図り、高い志に基づいた進路を実現する。
- ③ 卒業後の学び、仕事、人生に向けて、自分の強みを知り、必要なことを考え続ける自律型キャリア形成力を育成する。

4 保健管理・防災

保健部

- ① 心身の健康に関心を持ち、自分で健康管理ができる生徒を育成する。
- ② 美化意識の高揚を図り、主体的に環境美化に取り組む生徒を育成する。
- ③ 防災訓練を通して生徒の防災意識を高める。

5 心の環境整備
生徒支援委員会
いじめ対策委員会

- ① 生徒一人ひとりが、多様性を意識し、他者への配慮を持って生活を送ることができる。
- ② 教員間の意思疎通を活発にし、相談体制の拡充を図る。連携を密にして情報の共有を図り、様々な立場で生徒の見守りができる。
- ③ 生徒自身が困りごとを気軽に教職員に話すことができる環境を整え、自らの進路実現に主体的に取り組むことができる。

6 図書広報活動
・保護者との連携

図書渉外部

- ① 読書を通して生徒の興味・関心・探究意欲を高め、考える力と豊かな心を育てる。
- ② 生徒の学校生活を記録し、学校の様子を校外に知らせる。
- ③ PTA・同窓会活動等とあわせて教育活動や環境整備を充実させる。
- ④ 奨学金、購買事業等とあわせて生徒の学校生活環境の充実を図る。

7 SSH・探究学習

SSH・探究科

- ① 知的好奇心を持ち、科学技術や地域の課題に積極的に取り組む科学技術人材を育成する。
- ② よりよい未来社会を様々な価値観を持つ人々と共に創るための力を育成する。
- ③ 専門機関、地元企業、自治体との連携を強化し、ふるさとの未来と自分の将来を思い描くキャリア形成力を育成する。

8 学校業務改善

- ① 教員間の協働を促進し業務を改善することで、生徒と向き合う時間を充実したものにする。

具体的取組

- a 授業研究体制を確立し、教材を工夫したり、ICTを活用したりすることによってわかりやすい授業を組み立てる。
【T】 【K】
目標【生徒がわかりやすい授業が展開されていると感じている：生徒80%以上】
- b 学力向上チームを中心に、生徒の主体性を育み、思考力・表現力の向上をめざす。
【K】 【F】
目標【思考力・表現力の向上をめざす授業改善に取り組んでいる：教員70%以上】
- c 家庭学習の実態を把握し、面談や適切な課題を通して自学自習の習慣・態度を養う。
【F】
目標【平日の家庭学習を2.5時間以上している：生徒50%以上】

具体的取組

- a 集会やクラス等の場で継続的に人権尊重を啓発し、SNS等による過剰な連絡を生徒同士が自粛し合う風潮を、生徒会や保護者と連携協力し、作っていきける。
【T】 【K】
目標【夜9時以降、SNS等で友人に連絡をしていない生徒60%以上】
- b 挨拶推奨、校則遵守・マナー向上指導の頻度を増やし、生徒がその大切さを理解して挨拶や正しい服装等ができる。
【K】 【F】
目標【行動や服装・頭髪は武生高校生としてふさわしいものにできた：生徒95%以上】
- c 一定時間内で部活動に集中し、学習と両立できる。
【K】 【F】
目標【両立が自分なりにできた：生徒75%以上】

具体的取組

- a 個人面接やロングホームを通して、自己意識を育成し、可能なら早期の進路目標を設定する。きめ細かな初期指導や、動画学習教材、自己の進路希望に応じた講座を受講し、国公立大学に合格する確かな学力を身につけることができる。
【T】 【K】 【F】
目標【国公立大学合格者数：現役200人以上】
- b 進路講演会、大学訪問等を通して、自己および保護者の進路意識を高め、高い目標を持って学び続ける集団を求める。特別講座や個別指導、動画学習教材を通して、難関大を突破する高い学力を身につけることができる。
【T】 【K】 【F】
目標【難関10大学+医学科合格者数：現役40人以上】

具体的取組

- a 健康に関する情報に関心を持ち、生徒自らが健康の維持・管理に努めている。
【T】 【K】 【F】
目標【自己の健康管理に対する意識が高まったと感じている：生徒80%以上】
- b 生徒にとって一番身近な美化活動である毎日の清掃活動とゴミの分別を行なうことにより、環境美化に取り組むことができる。
【K】 【F】
目標【学校環境の美化に主体的に取り組むことができた：生徒80%以上】
- c 防災訓練実施に際し、生徒の防災意識が高められるような教材等を準備する。
目標【防災訓練を通して防災に対する意識を深める：生徒75%以上】
【T】 【K】 【F】

具体的取組

- a 多様性を尊重し、周囲に対し配慮をもって接することができる。
【T】 【F】
目標【学校生活（学習・課外活動・友達関係）に、前向きに取り組むことができた：生徒70%以上】
- b 生徒との面談を複数回実施し、生徒の困りごとに素早く対応することで、安心して学校生活を過ごすことができる。
目標【週2回以上は個別に生徒と係わることができた：70%以上】
【K】
- c 生徒が教職員と面談を重ねることで、自己を見つめ、自分が目指すべき進路に向かって、主体的に取り組むことができる。
目標【担任等と個別に話をする中で、自己の進路を主体的に考えることができた：80%以上】
【F】
- b 振り返りチェック票の活用や保護者・外部機関との連携を図り、気になる生徒の早期発見・早期解決に努める。
目標【振り返りチェック票等から得られた情報を確認し、必要な対応を行う：教員100%】

具体的取組

- a 本の紹介・図書館の展示・教養講座・読書タイム等の取り組みを通して、読書への興味・関心を高め、自発的に読書や図書室を活用した探究活動に取り組める。
【T】 【K】 【F】
目標【資料閲覧、学習活動などで図書室を1年間に3回以上利用したという生徒の割合50%以上】
- b オープンスクールや学校説明会等の広報活動を通して、学校の内容を理解できるように伝えることができる。
【K】 【F】
目標【オープンスクールで、学校の内容を理解できた：中学生90%以上】
- b PTA各会議・各部会の活動等とあわせて全保護者にPTA活動方針の理解と協力を得る。
目標【PTA活動を理解しており活動が充実している：保護者75%以上】
- c 生徒が充実した学校生活を過ごせるよう奨学金、購買等の充実を図る。
目標【学校生活のサポート体制が充実している：生徒75%以上】

具体的取組

- a 知識や根拠をもとに論理的に考え、未知・未踏の領域に果敢に挑戦する姿勢を育成し、地域の小中学校・高等学校・大学・企業等へ成果の発信をする。
【T】 【F】
目標【学会を含む学校外部での発表60本以上】
目標【学校評価アンケート（生徒）興味関心で75%以上】
- b 課題研究や探究的な学びを通して、積極的に意見交換を行い、協働的に課題に取り組む姿勢を身に付ける。
【K】 【F】
目標【学校評価アンケート（生徒）積極的に取り組んだ75%以上】

具体的取組

- a 行事や会議等の業務の精選と、DX化により業務を効率化する。
【T】 【K】 【F】
目標【各部署等において、業務の精選とDX化による業務の効率化ができた。（教員）効率化できた。70%以上】
b 教員一人の抱える業務を見える化し、協働しあえるシステムを構築する。
【T】 【K】
目標【業務の偏りを感じない。（教員）偏りを感じた。20%未満】
c 様々な勤務体系を活用する。
【K】 【F】
目標【様々な勤務体系を活用できた。（教員）活用できた。70%以上】